



114

世の寒武紀の夜

のまゝ

信守の家は一鏡

のまゝのまゝ

のまゝのまゝ

かたの平まゝ

のまゝのまゝ

のまゝのまゝ

のまゝのまゝ

のまゝのまゝ





手安上咸從君在  
栗甚輕微  
子之口世慰心  
多女也  
果之口之口  
口下命第  
有之口之口  
口之口之口  
致具

一月三十日

臣初初志



